

地域への理解と誇りを深め社会参画意識を高める教育活動の在り方 ～地域と一体となった「田んぼアート」の取組を通して～

岩手県岩手町立一方井小学校
校長 前川 岳 詩

I 主題設定の理由

社会の一員として自立し、積極的に社会に関わろうとする態度を身に付けるため、社会形成・社会参加に関する教育を推進することが求められている。新学習指導要領においても、社会に開かれた教育課程を推進する中において、社会参画という視点を重視した教育内容の充実が図られている。地域社会への理解を深め、地域への誇りと愛着を持ちながら、自らも地域社会への関心をもって社会の形成に関わろうとする態度は、「生きる力」の根底に位置付くものであり、その重要性は高い。

これまで本校では、地域の主要産業である農業体験を中心に、各学年で地域と密着した様々な教育活動を実施してきた。これらのことにより、農業の重要性やすばらしさ、働くことの意義理解や地域の方々への感謝等、多くの学習成果を得てきた。しかしながら、これまでは、児童の主体性や児童の思いや願いを生かした創造性の面において課題があった。「田んぼアート」にも前年初めて取り組んだが、その時は大人が考えたデザインに大人からの指示を受けて田植えをする活動であり、より広い視野から自分たちの地域の特色やよさをとらえたり、自らも地域社会の一員として主体的に地域の在り方を考えたりという社会参画の視点は十分では無かった。

そこで、本実践においては、これまでに構築してきた地域や関係機関との連携体制を基盤とし、昨年度の反省も踏まえながら、児童の主体性や創造性が生かせるようより進化した「田んぼアート」に取り組むこととした。この活動により、児童の地域への理解と誇りを一層深め、社会参画の意識を高めていくことをねらいとして本主題を設定した。

II 「田んぼアート」の実践に当たっての留意点

「田んぼアート」とは品種の異なる複数の稲を用い、その色の違いを利用して田んぼに絵を描く「稲作の芸術」とも言われるものである。壮大なキャンパスに絵を描く遊び心があり、児童にとっては魅力的な活動である。この活動を通じ、地域への理解と誇りを一層深め、社会参画の意識を高めていくというねらいを達成するために最も留意したことは、実際に田んぼアートの田植え体験を行う前の事前の活動と、田植え後の事後の活動を重視したことである。

事前の活動では、「なぜ、田んぼアートに取り組むのか？」という取組の目的を主体的に考えさせ、その活動が「町おこし」につながることを捉えさせる。さらに、アートに描くデザインを一人一人考えさせることで、活動の意欲とともにその町おこしに自らも関わろうとする社会参画意識を引き出していく。

事後の活動では、田んぼアートで得られた学びの成果の振り返りと発信を行う。地域を改めて見つめさせ、地域社会の一員として在り方やこれからの生き方等、学んだことや考えたことを地域の方々に発信させる活動（田んぼアートの創作劇）を位置付けねらいに迫っていく。

III 実践の概要

1 単元「一方井田んぼアートに挑戦！」（第5学年 総合的な学習の時間）の活動計画

(1) 本実践の主たるねらい

- 岩手町（一方井地区）では、田んぼアートを通じ、主要産業の農業の普及宣伝や町おこしを行おうとしていることを知る。
- 「町おこし」につながる田んぼアートのデザインを考えることを通し、岩手町や一方井地区の歴史や産業等のよさや特色を理解すると共に、田んぼアート作りへの意欲を持つ。
- 地域の方と共に田んぼアート作り（田植え）を行い、地域との一体感の持ちながら、自らも進んで町おこしに関わろうとする参画意識を高める。
- 田んぼアートの取組を創作劇に表現することを通し、地域への理解や誇りを深め、自らの生き方を考えたり、今後も地域の発展に積極的に関わろうとしたりする。

(2) 主な活動の流れ (第5学年 総合的な学習の時間「一方井田んぼアートに挑戦!」)

活動過程	主な活動	活動内容の具体
課題把握	1 なぜ「田んぼアート」に取り組むの? (4月)	<ul style="list-style-type: none"> 先進地の青森県田舎館村の事例を基に、岩手町(一方井)でも「田んぼアート」に取り組むことの目的を考える。 町役場の担当者や地域の農家の方から、「田んぼアート」にかける願いと取組の目的を知る。 アートに描く図案は、児童が担当することを知る。
課題追究	2 「田んぼアート」のデザインを考えよう! (4月)	<ul style="list-style-type: none"> 田んぼアートの目的である「町おこし」に合ったデザインの条件について、考えを出し合う。 地域の歴史や特色、自慢について出し合いながら、各自で図案のデザインを考える。 図案化したデザインを町役場に提言する。 (町役場では、児童のデザインを生かし、最終的な図案を決定し、児童に知らせる。)
	3 「田んぼアート」作りに挑戦(田植え)! (5月)	<ul style="list-style-type: none"> 「田んぼアート」の作り方や作業の手順を町役場や農家の方々に教えていただく。 地域の方々の指導の下、田んぼに描かれた下絵に6種類の苗を植える。 地域の方々と共に昼食を共にし、田んぼアートの今後の成長について話し合いながら交流する。
	4 「田んぼアート」を鑑賞しよう! (7月)	<ul style="list-style-type: none"> 稲が成長し見ごろを迎えた田んぼアートを鑑賞する。
	5 「田んぼアート」の稲刈りと次年度の準備をしよう (10月)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々の指導を受けながら、手刈りによる稲刈りをする。 次年度のために、品種別に稲刈りと脱穀作業をする。 地域の方々と共に昼食を共にし、田んぼアートの成功を話題にしながらか交流を深める。
	6 「田んぼアート」の取組を劇で表現しよう! (11月)	<ul style="list-style-type: none"> 児童のアイデアを取り入れながら、田んぼアートの取組を題材にした創作劇のシナリオを作る。 保護者や関わった方々を招き、田んぼアートの創作劇を発表する。
まとめ発展	7 「田んぼアート」の学習を振り返ろう (11月)	<ul style="list-style-type: none"> デザインの構想から創作劇の発表までの一連の学習を振り返り、学んだことや考えたこと、今後を生かしたいことをまとめる。

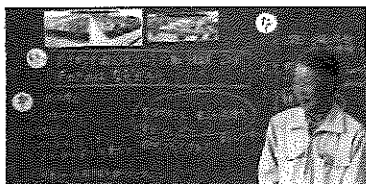
2 主な活動の実際

(1) 【主な活動1】「田んぼアート」の目的を考える活動 (資料1)

学習課題「岩手町で田んぼアートに取り組むことになったのはなぜか」について、追究した。児童らは、「町を有名にしたいから」「多くの人に来てもらい、町を盛り上げたい」などの予想を立て、この予想を検証するために、まず先進地である青森県田舎館村のホームページから田んぼアート導入のきっかけを調べた。この資料からは、



町おこしという視点の他に、予想には無かった「経済効果」という理由についても知ることができた。続いて岩手町でも田舎館村と同様であるのか児童に問いを持たせた上で、ゲストティーチャーとして招いた地域の農家の方と役場の担当者から、岩手町での田んぼアートの目的や願いについて聞いた。この話から、

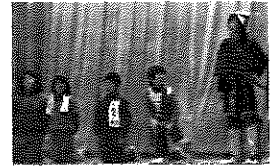


児童らは「農業の楽しさを通じ多くの方に来ていただき岩手町を盛り上げたい」という願いや田んぼアートが地域おこしの可能性を秘めた素晴らしい活動であることをとらえ、課題を解決した。さらに、ゲストティーチャーから「田んぼアートのデザインは、皆さんに考えてほしい」というメッセージをいただき、児童らは田んぼアートへの意欲や参画意識を高めた。

(2) 【主な活動2】「田んぼアート」のデザインを考える活動 (資料2)

田んぼアートの目的をとらえた児童らは、「町おこし」につながる図案は何がよいかアイデアを出し合った。その結果、岩手町や郷土一方井の特色を伝えるものとして初代南部(盛岡)藩主南部信直や輪台城、主要産物であるキャベツやレタス、そして町技であるホッケー等を表したいという意見が多く出され、各

町、自分の将来等について考えたこと等をシナリオに盛り込み、他の学年の児童、保護者や地域の方々、行政（岩手町町長も出席）関係者に発表した。また、この日の発表や田んぼアートの取組がNHKテレビ（NHK岩手放送局「おぼんです岩手」）で取り上げられたことにより、より多くの方に田んぼアートを発信することもできた。この表現集会の発表には、地域の方々や保護者から高い評価をいただいた。



3 児童の姿容

田んぼアートの取組を振り返って書いた、5年生のある男子児童の作文（抜粋）である。

（初め略）
 …なぜ、岩手町で「田んぼアート」に挑戦することにしたのかを考えたい。ぼくが予想していた通り、農業に興味を持ってもらいたい、たくさんの方が一方井に来てほしいという町おこしのためだった。
 今年、デザインからぼくたちが考えた。5年生みんなです。デザインを生けん命出し合っている、どうなるのかわくわくした。そして、一方井出身の南部はんのとのさま、南部信直公をイメージしたキャラクターのデザインに決まったとき、「すごい挑戦になるぞ」と思った。
 （中略）
 夏休みに展望台上がった時、イメージしていた以上に稲の色合いがきれいだ。これなら、みんな来てくれるぞ」と思った。ぼくらの田んぼアートを見て、「あ、おもしろそうだなあ」と思って農業に興味を持ってほしい。そして、たくさんの人たちにお米のすばらしさが伝わって、お米が好きになってほしいと思った。
 田んぼアートの取り組みを通して、農家の方々の「おいしいお米を届けたい」という思いを感じた。食べ物を作る人は、みんなそんな思いを持っているんだなあと思った。自然と感謝の気持ちが出てくる。祖父母の世代で米作りを終わらせたくなかった。ぼくは、このお米づくりをつぎたい。そして、すごくおいしいお米をつくりたい。

この作文を書いた児童の家は農家である。田んぼアートについて、期待感や達成感を感じながら主体的にとらえる姿が表れていると共に、米作りについても真剣に考え、自らの将来の目標に家業を継ぐ決意を力強く語っている。

他の児童も、振り返りの記述で次のように書いている。

- ・たくさんの人にすばらしさが伝わったと思うし、一方井のすばらしさも知れたと思います。農業は大変だけれど、すごくやりがいがあって、すばらしいということがわかりました。
- ・田んぼアートの取り組みを通して、一方井のことを知って、ますます好きになった。一方井のよさをいろいろな人に知ってもらって、とても楽しかった。
- ・田んぼアートの取り組みを通して、一方井のすばらしさがたくさんあることを学びました。下の学年や家族に、一方井のすばらしさを伝えられることができ、とても楽しかったです。
- ・私は、一方井は信直が生まれたところ、お米が有名なところということがあらためてわかりました。地域の人たちのように、ずっとやさしく明るくしたいと思ったし、米作りを家でもやりたいと思いました。
- ・これから、もっと岩手町のことを知りたいです。
- ・一方井や信直公のことを学びました。これから、家の田植えやいねかりを手伝いたいと思いました。
- ・田んぼアートのデザインを考えることが楽しかった。

これらの記述には、一方井の歴史や主要産業である農業についての理解が深まったこと、地域（一方井）についての誇りや愛着の高まり等が表れている。さらに、多くの児童が、「一方井のよさを伝えられたこと」について触れており、自分たちの活動に満足感を得たことが窺えた。

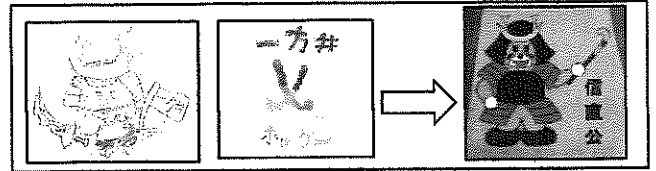
4 本実践の成果と今後の方向性

主題に掲げた「地域への理解と誇りを深め社会参画意識を高める教育活動」を実践できた。成果を以下の3点にまとめる。

- ・児童の地域に対する理解と誇りを一層深めることができたと共に、学校と地域の農業関係者、行政、関係機関の方々との連携体制を一層強化できたこと。
- ・活動の目的を重視した事前の活動と振り返りの活動（事後の活動）に重点を置くことにより、本体験活動の教育的価値を児童に的確に伝えることができたこと。
- ・デザイン作りや発信活動により、児童の社会参画意識を高めることができたこと。

社会参画の意識や態度の育成は、田んぼアートの活動だけで育まれるものではない。今後は、「社会参画」という視点から学校全体のカリキュラムを見直し、系統的・計画的な指導を考えていきたい。

自でそれらをデザイン化することとした。図案を考える活動は、岩手町や地域のよさを改めて見直す機会となるとともに、自分達のデザインで多くの方に岩手町に来てほしいという願いを高めることにもつながった。児童らの作品はどれも子どもらしいアイデアが豊かで、ユニークなものが多かった。これらの作品を組み合わせ、「南部信直」と「ホッケー」を合体した田んぼアートのオリジナルデザインが決定した。



(3) 【主な活動3】「田んぼアート」の田植えをする活動 (資料3・資料4)

田んぼアートの田植えの活動は、地域の一方井地区営農組合、岩手町役場職員、地元農業者、関係団体の方々40名から指導をいただき、手植えによって行った。児童らは、泥の感触を楽しみながら、品種や植える場所を間違わないように気を付けながら植えていた。「田んぼアートを見に来てくれた町外の人たちが町を好きになってくれたらうれしい」と話す児童もおり、単なる田植え体験に終わらず、岩手町について主体的に考えながら活動することができた。

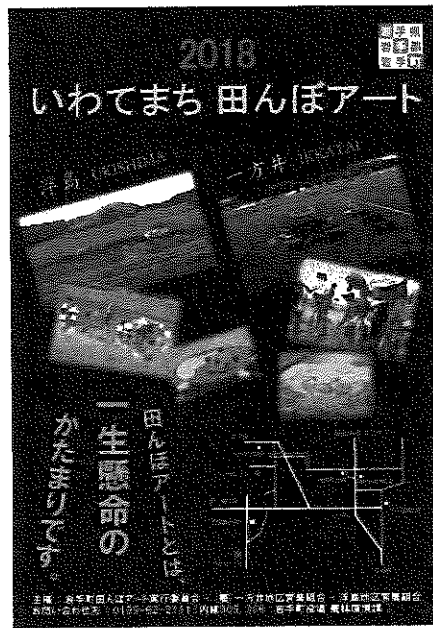


田植えを終えた後は、地域の方々が準備してくれた昼食をいただいた。地域で収穫された米や野菜、肉を使った食事を地域の方に囲まれながら味わい、児童は地域のよさや温かさを改めて実感した。また、田んぼアートや農業に関する話を多くの方から聞き、農業についての理解を深めたり、田んぼアートへの思いを高めたりすることができた。



(4) 【主な活動4】「田んぼアート」の鑑賞

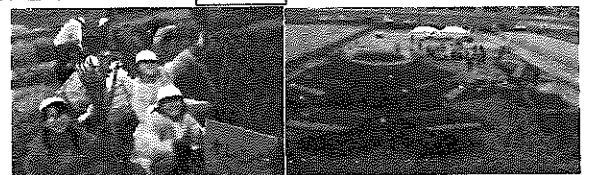
児童らが植えた田んぼアートは、7月に見頃を迎えた。自分達がデザインを考え、協力しながら植えた稲が順調に育ち、立派にアートができたことを児童らは喜んだ。



さらに、この田んぼアートが岩手町役場からポスター(右)やホームページで発信されたことや右のような新聞記事(「岩手日報」平成30年8月27日付)で広く町外にも広報されたことを知り、町おこしに関わられたことへの満足感も持つことができた。

(5) 【主な活動5】「田んぼアート」の稲刈りと次年度の準備をする活動 (資料5)

10月、田んぼアートの稲刈りと収穫を祝う会(昼食会)を行った。稲刈りでは、次年度の田んぼアートの苗の準備のために、品種別に刈り取りをした。昼食会では、農家や役場の方の他、岩手町町長も参加しメッセージをいただいた。田んぼアートが町外の多くの人々の関心を高めたことを教えていただき、自分達の活動の成果を実感することができた。児童にとって、これまでは町の行政について考える機会があまり無かったと思われるのが、行政や町づくりをより身近にとらえる活動となった。



(6) 【主な活動6】「田んぼアート」創作劇の発表

11月、学習発表会(本校では「表現集会」と称する)で、5年生は4月から取り組んだ田んぼアートテーマに取り上げ、学習の成果を劇で表現した。これまでの活動を振り返り、学んだことや農業、岩手

田んぼアート グレードアップで地域学習！

五年生が総合学習で追究 「なぜ田んぼアート？」

昨年度、今の六年生が新たな挑戦として取り組み、見事に大成功した田んぼアートでしたが、今年は五年生がその活動を引き継ぎ、よりグレードアップした「作品」にチャレンジすることになりました。学習の出発点として、そもそもなぜ岩手町で田んぼアートに取り組むことになったのかを先進地の青森県の事例や営農組合の黒沢金一さん、農林環境課の高橋宗介さんのお話から学んだ子どもたちは、田んぼアートが地域興しの大きな可能性を秘めた素晴らしい活動であることを知りました。

岩手町の一方井小は地元 知る機会にもなっている。トを開始。「一方井」の文
農業者らと協力し、児童の 一方井地区営農組合（黒 字を描いた昨年の活動には
農作業体験に力を入れてい 沢金一組合長）が、200 同校児童も加わった。今年
る。体験学習を通じて、一 1年、ろから同校の児童に はより複雑な図柄にする予
方井地区の主産業である農 農作業を指導。田植え体験 定で、田植えに参加する5
業を学び、地域をより深く などのほか、干歯こきなど 年生15人は今月、黒沢組合

子ども達が大変集中した授業でした。子ども達が考えた田んぼアートに取り組む理由は、子どもらしい視点や大人もびっくりの鋭い考えがたくさん出されました。



田んぼアートの活動に期待を膨らませる一方井小5年の児童

岩手町 一方井小 田んぼアート楽しむ

昔ながらの農具に親しむ活 長81センチから田んぼアート
動も推進してきた。 に関する説明を受けた。
町と同組合などは昨年から 青森県田舎館村などの事
町内2カ所で田んぼア 例を参考に、田んぼアート
ー



が生まれた経緯や地域経済 への波及効果、観光振興へ
の貢献などを児童が学ん だ。田んぼアート参加によ
り、児童は農業や地域への 関心を一層深めている。

【一方井小】前川匠哉校長、 児童78人。1876年創立。
2007年に同校区の安全 ネットワーク会議を設立し、
地域住民や関係団体と連携し た児童の見守り活動を展開し てきた。15年に浮島小と統合 した。

黒沢組合長は「地域の皆 さんに興味を持ってもらい ながら、岩手町を元気にし たい」と呼び掛け、武田 龍乃丞君は「今年の田んぼ アートは、昨年よりもっと 楽し〜面白〜したい」と期 待を高める。

(日曜日掲載)



さらに、ピッ グニュースとし て、今年のデザ インは「子ども 達自身が考えた アイディアを採 用する」ことが 黒沢さんから伝 えられ、子ども 達の意欲は大い に盛り上がりま した。

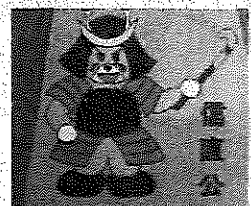
4月22日付けの岩手日報さ んの記事です。日報さんも、 田んぼアートのおもしろさに とっても興味を持たれ、これか らも取材されるそうです。

「期待下さい！」

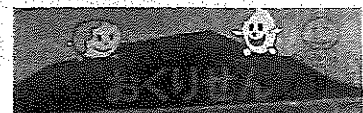
【資料1】一方井小学校報No.3 (H30.4.26)・岩手日報 (H30.4.22)

「田んぼアート」子供たちの考えが図案化されました！

今年の田んぼアートのデザインが決まりました！営農組合の黒沢金一さんと農林環境課の高橋宗介さんがいらっしやり、子供たちのアイディアを基に作成された2枚の図案を発表しました。一方井の田んぼに表現するのは、南部信直公が術技のホッケースティックを持っている絵です。浮島の田んぼアートは、「おくりせん」に岩手町キャラクターをデザインしたものです。どちらも子供たちのアイディアが随所に生かされ、しかも地域にぴったりの最高のデザインです。もちろん5年生の子供たちも大満足、大喜びで田んぼアートにチャレンジする意欲が一段と盛り上がりました。



「田んぼアート」の田植えは、6月4日に予定されています。既に、見物用のやぐらも設置され、あとは苗を待つばかり！とっても楽しみです！



【資料2】一方井小学校報No.5 (H30.5.23)

45. 資①

岩手町立一方井小学校(前川岳詩校長、児童数78人)では、学校近くの水田に様々な色の稲を植え、絵を描く「田んぼアート」に取り組んでいる。今年も、一方井出身の盛岡藩祖・南部信直が町技であるホッケーのステイックを持つデザインだ。農業の町で暮らす児童らは、地域の歴史と豊かな田園風景を生かした町おこしに汗を流す。

岩手町立一方井小学校

「田んぼアートに挑戦」

風に揺れる苗を見つめながら、完成形に思いをはせた。

泥だらけの武田龍乃丞君(11)は「田んぼアートを見に来てくれた町外の人たちが町を好きになってくれたらうれしい」と笑う。田中徳輝君(10)も「みんなと協力してアートに挑戦できてよかった。収穫したお米を食べるのが楽しみ」といきいきした顔を見せた。

一方井小では、2001年から一方井地区営農組合の協力を受け、農作業の体験学習を行っている。田んぼアートは昨年から組合や町が企画し、一方井小も参加。昨年は「一方井」の文字と太陽の図柄を描いたが、今年は児童からアイデアを募集、より複雑なデザインに挑むことになった。

10呎の水田で描かれた5年生15人が歓声を上げて次々に飛び込む。水田には、あらかじめ測量して「白」「黒」「短緑」など稲の色を記した目印が立っている。児童らはおぼつかない足取りで目印をたどると、決められたとおりに苗を植えていった。児童らは、田植えを終えると水田のそばにある高さ約7呎のやぐらに上った。「作品」の見頃は7月中旬〜8月上旬頃で、

挑む姿勢児童の心に



徳山善輝君

田んぼアートの制作には、児童だけでなく、地域住民ら約40人も集まり、田植えを指導したり、豚汁などの昼食を振る舞ったりして交流した。

一方井地区営農組合の黒澤金一組合長(81)は「町の歴史や文化を知る機会にしてほしい」と願う。町職員の高橋宗介さん(41)は「農業の可能性に挑戦する姿を子どもたちに見せたい」と思いを語る。地域を愛する大人たちが一緒に町おこしに挑む姿は、きっと子どもたちの心に刻まれているのだ。

【資料3】読売新聞(岩手版)
(平成三〇年六月二二日)

成長、楽しみ！田んぼアートの苗を植えました！

絶好の田植え日和の下、5年生の子供たちが心待ちにしていた田んぼアートの田植えが行われました。

自分たちで考えたデザイン「ホッケー信直公」への「着色」は、6種類の苗の植え付けで行います。子供たちは、指導して下さる皆さんの指示を聞き、苗を間違わないように気を付けながら植えました。転倒して真っ黒になった子もいましたが、初めての田んぼの感触を楽しみながら、頑張って植えました。活動後は、農協の婦人部の皆さんが用意して下さったおいしいご馳走をお腹いっぱいいただき、充実度満点の一日でした。これから、アートがどのように仕上がっていくか、とても楽しみです。

この活動に際し、営農組合さんや田んぼアート実行委員会さん、役場の方々、農協さん、八幡平農業普及センターさん、多くの地域の皆さん方にたくさんお世話になりました。本当にありがとうございました。



転倒者続出も、苗の種類を間違わないように気をつけて植えました



農協婦人部の皆さんを中心に、食べきれないくらいのご馳走をいただきました



展望台からの景色は、最高！成長が楽しみです！



本当にたくさんの方々のご支援、ご協力をいただき、感謝感謝です

【資料4】一方井小学校報第6号
(平成三〇年六月八日)

実りの秋！田んぼアートの稲刈り体験をしました

5年生が、田んぼアートの稲刈りを体験しました。一方井地区営農組合長の黒澤金一さんをはじめ、農協さんや役場さん、地域の方々、そして町長さんやキャベツマンにもお出でいただきました。子どもの数の何倍もの大人の方のご協力でできた活動です。いつもながら、多くの皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

活動では、はじめに鎌を使って手刈りに挑戦しました。刈り取った稲は、来年の田んぼアート用として色(品種)が混じらないように、気を付けて集めました。

さらに、千歯こきや足踏み脱穀機、唐箕(とうみ)などの昔の道具も体験させていただいた上で、コンバインの試乗体験もしました。コンバインは、昔のいろいろな道具が全て備わっている「オールインワン」であることを知り、今と昔の米作りについて実感しながら学ぶことができました。

活動後は、おいしいお昼ごはんが待っていました。新米で作ったおにぎりや芋の子汁、お漬物など、最高のご馳走です。帰りには、キャベツのおみやげまでいただきました。

楽しく、賢くそして美味しく、たくさんのお話を学ぶことができた充実した一日でした。



なぜ、田んぼアート？



デザインを考えよう

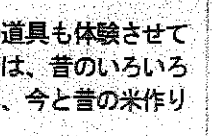
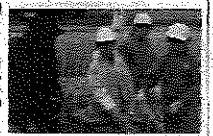


さあ、田植えです



立派なアートに！

ついに収穫のとき、稲刈りです



【資料5】一方井小学校報第一四号
(平成三〇年十月二二日)